

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

### \*天文機器資料館見学者のユーモア

筆者は、役目を終えた自動光電子午環の建物を有効利用して国立天文台天文機器資料館としており、ほぼ博物館となっている。天文機器資料館(写真1)は国立天文台の一般公開の見学ゾーンの奥深いところにあるので、見学者の何割かは見学されないでお帰りではないかと気がかかっている。天文機器資料館には所狭しと収集品が展示してある。主なものは、1)乗鞍コロナ観測所にあった25cmクーデ型コロナグラフ、2)一戸直蔵の資料展示コーナー、3)測地学委員会関係の経緯儀などの測量機器多数、4)経度決定に持ち運ばれたグロノメーター数個、5)ルビジウム原子時計、6)セシウム原子時計、7)27cm一等経緯儀、8)写真天



写真1 天文機器資料館

頂筒(PZT)、9)リーフラー時計、10)堂平観測所にあったソ連製人工衛星追跡カメラ(AFUカメラ)、11)ブラッシャー天体写真儀、12)太陽単色写真儀(モノクロ)、13)20cm屈折赤道義望遠鏡、14)日本最古のシュミット望遠鏡、15)流星写真儀、16)95cmハニカム鏡材、17)天文台で使われていた顕微鏡数点、18)機械式手回し計算機数点、19)30cm反射望遠鏡鏡筒、20)アメリカ製マン座標測定器、21)アメリカ製パーキンエ

ルマーPDS、22)写真濃度測定器、23)ナルミマイクロフォトメーター、24)アメリカ製リーズマイクロフォトメーター、25)フランス製プラン子午儀、26)分光光度計などである。

この天文機器資料館には、事情があって筆者の「遊び心」で元東京天文台教授「虎尾正久」氏の書斎にあった「布袋様」(写真2)が置いてある。天文機器の博物館には不釣り合いなのだが、こんなもの置くなという声はない。この布袋像の座布団の



写真2 布袋像



写真3 ギョットするユーモア  
ーチェ子午環棟をバックにした満開に桜である

上に「お賽銭」を置いて行かれる人が後を絶たない。その中には写真2のように頭の上に10円玉、口に10円玉を咥えさせる、こぶしに10円玉を載せるなどのいたずらをしていかれる見学者もいる。これも見学者が興味深くこの像を見ている証しだろうと思っている。

次の話題は、国立天文台は深い森になっているが、秋口にその落ち葉で面白いもの(写真3)を作り天文機器資料館展示室入口右側の窓に立てかけて行かれた見学者あった。なかなかの芸術品だと思うがいかがだろうか?筆者も見た時、「ギョッ」とした。楽しいユーモアだと思う。

この記事を書いている今日は、4月10日である。今年の国立天文台の桜は4月5日頃が満開であった。国立天文台は隠れた桜の名所でもある。写真4はゴ



写真4 ゴーチェ子午環をバックにした満開の桜

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)